





辨登井

定家卿ノ弟子ナリ

徒然草謗解卷三

辨登井相國出仕一語ける

1. 勅書（奉り）と持くる（奉り）小西（院ノ侍也）あひまゐりて馬より降りけり

相國（院ノ侍也）後（何某）小西（院ノ侍也）と持くる。下馬志傳

り者なり。いそがしき者。いそがしき君よつとまはせりまへ

まこととれられれば小西ともなされり。勅書（是ヲ勅）とするの

上（サテ）とて持て居せなまへ。勅書（是ヲ勅）とて

同封（手箱文箱等）のりつゝに。緒とつゝに。いそがしきにつけ侍るまき

も。ある有職（ユタ）の人よあひまゐりて。勅書（是ヲ勅）つけ表（ハ）

幣（右ノ方ヲ指ス巻物ノこと）よつゝに。あはれ（是）とて。又これ（是）

三ノ

たかくの右よりほく。もむくはにむくはのつらり  
と。たりせらるるま

此段モ同ク古実ヲ記ス又ハ一樣ク知リテ一偏ヲ諱フ人有り  
故ニ必一偏ニ不可心得テ教ニ

めちのむくはのつらり草あり。くら

くらむくはのつらり人。もの草

くらむくはのつらり。財のむくは

くらむくはのつらり。

ちん。むくはのつらり。

此段モ兼好慈悲ノ心ヲ以テ愛ニ記シ万人ニ知ラセ  
秘事ノ人ニ不教サウノ人ヲ戒ム段ト見ルベシ

と。物よつらり。くらむくはのつらり。むくはのつらり。財あり。君子よ仁義あり。  
小人財 小人ハ一向財宝ヲ求テ其ノ為ニオラ  
ソシテ財宝何ノ為ノ皆我身ヲ為テ求テ却テ

小人財 小人ハ一向財宝ヲ求テ其ノ為ニオラ  
ソシテ財宝何ノ為ノ皆我身ヲ為テ求テ却テ

財あり。君子よ仁義あり。  
其國生テ其國ヲ守テモヤル

身ヲ破

君子仁義 爰ハ例ノ兼好コトム処ノ老莊ノ

僧ノ法あり

道ヲ以テ云ルルリ仁義ハ大道ノ廢レタル起ルル起テ云テ仁義ノ名ノ無キ以前ノ虚無自然ノ道ヲ貴ナリ  
故ニ爰君子仁義ヲ求メテ却テ眞實ノ道ヲ破ト云レリ此ノ前ニ誠ノ人ハ智モナシ徳モナシ名モナシト  
云処ヲ以テ此ノ心ヲ可知

僧ノ法あり 僧ハ法アルニテソノ出レソノ法ニ泥テ却テ眞ノ佛道ニ迷テ維摩經ニ法猶可捨ナリ  
然レ其ノ法ヲ求テ却テ眞ノ道ヲソシテ此ノ前ニ是法法師カ字匠ヲ立スニテ安ラカニ念佛レ各  
ヲ好ニテ此段ヲモ可見ル

一言芳談 板行アリ聖ノ誰モナシト云フ  
辞ヲ一向ニ載セタルモノナリ故ニ一言ト云芳ノ慶美  
字談ハ談話ナリ 爰ノ詞一言芳談ハ少シト違  
テ兼好ソシテ云ルモノナリ

くらむくはのつらり。草あり。君子よ仁義あり。

事

二志やせぬ。むくはのつらり。あはれ。むくはのつらり。

二志やせぬ。むくはのつらり。あはれ。むくはのつらり。  
母ノ一言ハ明遍ノ辞ナリ

一 後世と云ふ人者「養林」庄泰本庄「糝粘」庄より是「俊兼房」ノ辞「芳談」是「解脫上人」ノ辞 糝は親「又」カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ 糝は親「又」カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ 糝は親「又」カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ

一 道世者「一」物モホメテカミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ 道世者「一」物モホメテカミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ 道世者「一」物モホメテカミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ又カミリノ

一 最上のやうにしてあふなり「是」最上ノレキツト 最上のやうにしてあふなり「是」最上ノレキツト 最上のやうにしてあふなり「是」最上ノレキツト

一 上臈「上」臈ハ下臈よりなり 上臈「上」臈ハ下臈よりなり 上臈「上」臈ハ下臈よりなり

一 徳人の貪「徳」人ハ其ノ富ニ君セス 徳人の貪「徳」人ハ其ノ富ニ君セス 徳人の貪「徳」人ハ其ノ富ニ君セス

一 徳人の貪「徳」人ハ其ノ富ニ君セス 徳人の貪「徳」人ハ其ノ富ニ君セス 徳人の貪「徳」人ハ其ノ富ニ君セス

一 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也

一 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也

一 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也

一 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也 佛道とねがふをいふ別「佛」道ト云ハト同ト也

以外とある事とありとありと

爰ヲ以テ見テ兼好空ニ見テ書キ者  
トシ 此段モ前段ヲ受テ道世困人ノ

堀川相國「基」具々之岩倉内府具實公ノ一男 堀川相國「基」具々之岩倉内府具實公ノ一男 堀川相國「基」具々之岩倉内府具實公ノ一男

美男「美」男ハ好ト美色ヲ好ト二義 美男「美」男ハ好ト美色ヲ好ト二義 美男「美」男ハ好ト美色ヲ好ト二義

大理「大」理ハ唐名ナリ 大理「大」理ハ唐名ナリ 大理「大」理ハ唐名ナリ

職原「職」原ハ唐名ナリ 職原「職」原ハ唐名ナリ 職原「職」原ハ唐名ナリ

唐虞「唐」虞ハ唐名ナリ 唐虞「唐」虞ハ唐名ナリ 唐虞「唐」虞ハ唐名ナリ

凡「凡」此ノ大理ノ職ハ追捕 凡「凡」此ノ大理ノ職ハ追捕 凡「凡」此ノ大理ノ職ハ追捕

規「規」ハ山ノ物ヲ作ルニ用 規「規」ハ山ノ物ヲ作ルニ用 規「規」ハ山ノ物ヲ作ルニ用

規「規」ハ山ノ物ヲ作ルニ用 規「規」ハ山ノ物ヲ作ルニ用 規「規」ハ山ノ物ヲ作ルニ用

俊「俊」ハ唐名ナリ 俊「俊」ハ唐名ナリ 俊「俊」ハ唐名ナリ

は。上古より傳りて。今始

とあつた。数百年来と強あり。累代の公物。古弊として

規模とす。もよとくあつた。あらまじり。故室の

徳官等。つれつ。まよるや。まじり。

之我。おほい。た上。まよるや。まじり。

とまよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

とまよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

とまよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

とまよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

累代の公物。古弊として

つれつ。まよるや。まじり。

まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。

内弁。オ。大臣。於。門外。弁。條。諸。事。故。云。外

内記のおける宣命。内記。職原。儒。門。中

文筆者。後。ト。リ。宣命。後。草。案。調

内記。宣命。作。之。之。草。案。調。次。之。清

記。其。宣。命。持。座。三。候。ス。リ。其。内。弁。ノ

康綱。中。原。ノ。康。綱。正。六。位。上。權。大。外。記。歴

徳治。以。來。五。代。從。五。位。下。日。向。守。源。重。尚。男。云

堂上。廿。七。日。上。之。云。さ。は。海

と。系。へ。ま。に。も。あ。つ。は。思。ひ

康。綱。ま。あ。つ。は。ま。の。女。房。と

て。思。ひ。や。ま。あ。つ。は。ま。と。世。に。り。い

う。ひ。て。彼。宣。命。と。り。ま。せ

と。思。ひ。や。ま。あ。つ。は。ま。と。世。に。り。い

又。五。帝。男

史記ノ注ニ故室ハ故吏ノ是ナリ者トナリ

「雅實公ナリ六条ノ大臣ノ房々御子」

「字ヲノカリト思ヘリ又詩經既辨其辭」

云朱注鯨角上曲角也是大角曲ル外ヲ持テ飲器皆ニカリト云也此有職ノ人モ之カニ知ラサレリ。扱上器ヲ

其ノ身ヲ屈ノカレヨリ名付テ飲器皆ニカリト云也此有職ノ人モ之カニ知ラサレリ。扱上器ヲ

「内弁 諸ノ節會ニ内弁外弁ナリ」

「第一ノ大臣於承明門内弁條諸吏故也」

「三三假ニテ房々人等ニ任スル」

「上三條又飲器上ニカレラケニハ非ス」

「或説ニ見テテテテテテテテテテテ」

「或人任大臣の節會此内弁也」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

「つれつ。まよるや。まじり。つれつ。まよるや。まじり。」

と師とすより外の。キ見えひりしとぞの。さまひる  
安泰の心此又五郎ハ教養云々トモタル者ト大故実ハトカク其意トモ者ヲ仰トせラヨトト相面  
夜又五郎ハ老る情去のゆくひるがよくなは出てる者  
是ヨリ兼好ノ辞  
侍士 衛門兵衛ノ被官ヲ衛士ト云禁中ニテ  
火ヲ焼ク者ニミカキ守侍士ト云トヨメリ  
志のひける時ひざつきを志して外記とめられぬ  
又五郎ノ時陣ノ座ニツク  
火のきいてひきまが。先ひさ

ひさつき 膝突ト云ナリ小半登ノノウスリ  
戦ノ字ヲ用ハ悪ニ戦ハ和名ニ車前ナリト  
車ノトビキミトヨメリ  
又五郎推量ノ着陣ノ何ナク外記ヲ存ハヒサツキ  
ヲ志テ其ノ為ニ召サレナラトツキ先是モムラトモ七九故ニ早速ニ心付ルトノ廢美  
忍ひやに情をよきある。いざわいざわい  
け段モ前段ヲ受テ康徳カズラニタルヲ述テ公事ノ用意ヲ云ナリ

後宇多院ナリ  
大慈寺取こそ。近留の人とも。ちまくと流るうて  
君ノ御メ也云々トナリ  
謎ノ字ヲヨリ字存隠言ナリ  
か各アトウカガリトアルモソノノトゾ  
いれけるまへらと

忠守 丹家康頼十一世忠守典

薬頭正四位下

公明 正親町三条ノ慶流大納言實仲卿息  
侍従大納言ト大納言ヲ侍従ヲ兼官

守多ありけるに。侍従大

納言公の卿。我朝の者も

んね忠守とれと。ちまくとせらるるよけらと。唐純

子とこまそてひあられれば。はらうらて退出よ

あり 此ノナクハ我朝ノ者ト云ハ唐ノ忠守ハ平氏ノ忠盛ノイラ假リ用テ純子ニトリナレ  
テ唐純子ト解

此段前段ハ公事ノ物ト云ハ例ヲ述ヘ爰又物ト云人ハ如此ニ服宜ナリト云テ下ニ上ニ居テ不慢  
ト云フ有テ近習久クテ戒メ又忠守服立ノ退出セラレニ其ノ器量ノ狭イハ依テ一座ノサニ  
アレキト後ノ人ヲ教ヘテ有ナリ

割るる岩の。人わらまきに。女のまろく。あまあることろ

にて。はれく。とまらあまを。ある人。どひひひん

とて。夕はく。秋の。実未とれら。忍ひて。ねお

謎也見舞  
夕月夜夕附夜兩美之  
走大三

道ノ程ノ分明ナリ  
他ニヨラテ云リ  
實ハ兼好ニ當テ可見

けしきに。犬のことくしきさむしきげと女のい

犬のさむしき 夜中ノ体ナリ 都良香詩宗家

一犬迎人 吠ト云ハリ 又奇ニ

夜モスカフト夏ノ犬ノ舌空テ毛モ多ク多クミダシキ

トモルタル宿ナド

ぬへいそをちるありさぬいそささきんといとく

其れタル宿ナド疑ニキ体之

る。あやまき板敷よまぐりま路へまともしてき

気色

めくろけひのびさなるしておれさといよ人あま

主テ用ケル板ナド戸ヨリニ

バ。まてあけおきげちる遺戸よりぞ入ひめる肉の

外ハシラタル宿ナド

さぬはいづくともおゆいふく。火ハあるまに

火ヲ遠クホカニモシメル

むのなれどむのきくちきさきて俄にもしあ

此ト是ヨリ女房ナド下ニ

ぬよるひいとかのうすまぬりあり。門はくさ

るむとさう。あまヤラシト云トナカラ終リ可

際ト見ル時ニ云テハナリ

てよ。ぬりぞちる。西車ハハの

志した。お供のへいささみといへば。あまひそを

ころひそやとさき

まいつぬべん先ふと打とう

荒タル宿ナド日比ハ用心

わくもあひこれとねちまれば。あのきさる。さてけりど

巖ニケル今夜ハ客ノアハ心易ク可寝ト云

のまどもこまむたにささきみち。あつちをさききん

ト年々

あふ。あまのささきみち。あつちをさききん。あつちを

下部ノカキテ云々恐ニヤカシ

けさびいあひもなるなる声よりちきまされむえ

衣ノカキ鳥上云ニ羽ノハ交ハシメテ云

ちろくちとつねへん。あつちをさききん。あつちを

衣ウケいそくべき

もあらぬ。ささきみち。あつちをさききん。

夜フカク寝シ人目ナキ処ナド夜フカク急ダ

へあま。ひんまうくちられバ。

ベキニ非ス又一別シラ情ニ思ヒ乱ス風情

ひびきく 夜ノ明カシテ遠聞ノ声多ク

忘るる事ごとくもいひて

夜中ニ来リ冬今見ル様

まおつて。惜もをり。しるし。かき。お  
四月六日ノ花吹時ナリ。在月ト云ラ。櫻ノ初月ト云  
知月ト云ル。此あけりの。えんよち。かき。し。お  
か。お。桂ノ木ノお。お。さ。か。あ。ぐ。く。あ。ま。ん。て。  
今もえとく。り。あ。ま。ん。て。  
人の上ノコト云ナセリナリ

桂木 其時の風情ノ志ニ難クバ其家ノホトリニ桂ノ木ノ大ナラ昔ノ名残ニ今ニ思ヒ出ルナリ  
源氏花ノうら。ま。に。ほ。お。ち。あ。ら。う。の。木。は。ひ。く。せ。よ。奈。の。比。た。り。わ。く。ひ。ま。て。う。こ。と。う。と。う。と。う。

又菅家ノ御と。君ガスムヤドノ梢ヲユククモカクルト云アリ。三六ヤ此奇ノ心モコモリテ。因ニ  
お。い。は。な。け。は。ま。き。り。あ。り。う。る。雪。の。い。さ。あ。り。う。る。よ。  
甚 凍

さ。さ。さ。車。の。ち。が。え。も。あ。い。う。く。ま。う。う。ま。さ。て。  
南面ハ早ク消レ

あ。の。月。さ。や。な。れ。ど。も。ま。ま。あ。い。あ。い。ぬ。い。ん。だ。

く。は。ち。ハ 未達ナドノ体カ又月ハ明ナレ  
春ナバラボロニ見ル体カ

あれが家佛堂の廊下  
長押ノ家上トエテアテ長押ノ下ト長押ノ下ト長押ノ下ト

ち。ち。は。あ。い。と。あ。る。男。女。と。あ。い。う。ま。り。  
常ノ久ト不見

あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。  
腰カカレ

あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。  
神代卷ニ頗傾トキリ女ヲウチカケ

あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。  
ムケ九形ナリ

あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。  
あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。

あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。  
あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。

あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。  
あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。

あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。  
あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。あ。い。う。ま。り。



うりあるが。くらひまきける男。あーくらひまきて聖のる  
と垢へたとして。聖いとくらひあーくらあて。こへ

希有の狼籍ラヂのれ。四部シブの弟子デシはすれ。比丘ヒクより比丘ヒク

狼藉 藉ハ踏ナリ狼ノ如クニキラレタ名也  
乱ガレキラ云也 漢音ノ注見タリ

四部弟子 比丘比丘尼優婆塞優婆塞也

佛弟子沙門上尼ト俗男ト俗女ト

翻譯名義集云比丘名也士清淨法命故

比丘尼通云女為尼尼得無量律儀故

應為比丘優婆塞名信士男優婆塞名

信士女又云清淨士清淨女雖在居家持五

戒男女不同宿故云善宿男女

塞ツへたらり。うんそくより  
優婆夷ウパイハともきり。これ

比丘ヒクと垢へ踏フミ入イらる。妹ニ

比丘ヒクと垢へ踏フミ入イらる。妹ニ

比丘ヒクと垢へ踏フミ入イらる。妹ニ

尊有ソウ乃怒イりたりといふれ。れ。はひまき男。いふた

むせううやんえんをまき。と。よんをい

いさすく 源氏ゲンジの曼マンのんぐいさ

日ヒまきけい。何ナニハラスナリイキト先

後飲トアリ 息巻ト云

非修非学 道ヲモ修セズ学向ヲモセヌ云

てまひまきりもまき放言ハツゴ志シのといひける。花ハナ色イロよて。馬

引ヒキへしてまき。まにかり。たう。まらる。いさうひ

ちうとへ。は段ハ前マノ二段ニ段ニ男女ナンニョタタラレノ興キョウ凡ソド体テイヲ云イフ爰コトニ證シ空クウ女ニョニ向ムクテ女メヲ愛アイス者モノト云フ

女メ乃ハ垢カウひひける返マゼり。何ナニハラスナリイキト先

る男ヲへまき。た物モノとして。志シの院インの時トキ。志シの女メ

房ホウと。いさ男ヲと。志シのまらる。毎ツネ。郭カクらや。安ヤス路ロ

へふと向ムクて心ココロをまき。志シの院インの時トキ。志シの女メ

ハ。教キョウちうぬ男ヲハえまき。いさ。志シの院インの時トキ。志シの女メ

本具守公ナリ後申書王九代ノ孫勝川太政大臣基具ノ息  
内大臣ぬひ。若念<sup>ニラ</sup>も<sup>ハ</sup>笑て<sup>レ</sup>い<sup>ハ</sup>やんと<sup>ハ</sup>た<sup>ハ</sup>わ<sup>セ</sup>り<sup>マ</sup>す  
れける<sup>ト</sup>。先<sup>ハ</sup>難<sup>シ</sup>ち<sup>シ</sup>。今<sup>も</sup>も<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>。む<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>し<sup>ト</sup>定<sup>テ</sup>  
めあ<sup>ハ</sup>れ<sup>テ</sup>ら<sup>シ</sup>り<sup>ハ</sup>ゑ<sup>テ</sup>て<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>こと<sup>ハ</sup>わ<sup>ニ</sup>り<sup>テ</sup>り<sup>ハ</sup>な<sup>セ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>や<sup>ラ</sup>う<sup>ニ</sup>  
抑<sup>フ</sup>。あ<sup>ハ</sup>べ<sup>ト</sup>も<sup>ハ</sup>津<sup>ト</sup>止<sup>チ</sup>ち<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>実<sup>ニ</sup>向<sup>ヘ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>。わ<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>て  
安<sup>キ</sup>喜<sup>シ</sup>つ<sup>レ</sup>流<sup>シ</sup>の<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>へ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>務<sup>ニ</sup>と<sup>テ</sup>世<sup>ヲ</sup>路<sup>ヲ</sup>な<sup>リ</sup>あり  
政<sup>ノ</sup>院<sup>ノ</sup>女<sup>御</sup>浄<sup>土</sup>寺<sup>ノ</sup>房<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>息<sup>ノ</sup>女<sup>ナリ</sup>  
浄<sup>テ</sup>こと<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>そ<sup>ト</sup>人<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>作<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>げ<sup>ル</sup>と<sup>ハ</sup>わ  
山<sup>ノ</sup>階<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>尺<sup>ノ</sup>女<sup>ハ</sup>。あ<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>下<sup>ニ</sup>女<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>足<sup>ヲ</sup>も<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>い<sup>ト</sup>も<sup>ハ</sup>  
安<sup>キ</sup>権<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>院<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>尺<sup>ノ</sup>女<sup>ハ</sup>。い<sup>ト</sup>も<sup>ハ</sup>  
く<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>心<sup>ヲ</sup>づ<sup>ク</sup>み<sup>セ</sup>ら<sup>シ</sup>め<sup>ラ</sup>る<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>た<sup>ハ</sup>ほ<sup>セ</sup>ら<sup>レ</sup>る<sup>ハ</sup>女<sup>ノ</sup>  
ち<sup>ハ</sup>世<sup>ヲ</sup>か<sup>リ</sup>せ<sup>ら</sup>ん<sup>ハ</sup>衣<sup>ノ</sup>紋<sup>も</sup>冠<sup>も</sup>。い<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ひ<sup>ま</sup>つ<sup>テ</sup>  
ろ<sup>ノ</sup>人<sup>も</sup>侍<sup>ラ</sup>ぶ<sup>ト</sup>。かく<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>。も<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>女<sup>ノ</sup>。い<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>  
公サボリヲモフナリ 此ノ心ハ解<sup>キ</sup>テ 此ノ心ハ解<sup>キ</sup>テ 此ノ心ハ解<sup>キ</sup>テ 此ノ心ハ解<sup>キ</sup>テ  
公人我ハ後<sup>ニ</sup>他<sup>ノ</sup>ラ<sup>シ</sup>リ我<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>奉<sup>テ</sup> 此ノ心ハ解<sup>キ</sup>テ 此ノ心ハ解<sup>キ</sup>テ 此ノ心ハ解<sup>キ</sup>テ 此ノ心ハ解<sup>キ</sup>テ

是<sup>レ</sup>リ<sup>ハ</sup>女<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>果<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>畢<sup>シ</sup>竟<sup>ス</sup>好<sup>シ</sup>色<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>心<sup>ノ</sup>迷<sup>ル</sup>上<sup>ニ</sup>ナ<sup>リ</sup>ク<sup>ス</sup>

是<sup>レ</sup>リ<sup>ハ</sup>女<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>果<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>畢<sup>シ</sup>竟<sup>ス</sup>好<sup>シ</sup>色<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>心<sup>ノ</sup>迷<sup>ル</sup>上<sup>ニ</sup>ナ<sup>リ</sup>ク<sup>ス</sup>

是<sup>レ</sup>リ<sup>ハ</sup>女<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>果<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>畢<sup>シ</sup>竟<sup>ス</sup>好<sup>シ</sup>色<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>心<sup>ノ</sup>迷<sup>ル</sup>上<sup>ニ</sup>ナ<sup>リ</sup>ク<sup>ス</sup>

是<sup>レ</sup>リ<sup>ハ</sup>女<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>果<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>畢<sup>シ</sup>竟<sup>ス</sup>好<sup>シ</sup>色<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>心<sup>ノ</sup>迷<sup>ル</sup>上<sup>ニ</sup>ナ<sup>リ</sup>ク<sup>ス</sup>

ゆへいとおろし 我本心明白すハ何ソカラ  
愛せ唯我心ヲ迷ニテモ随時面會ラシト

ふいとあふりして

ふいにあふりて。やうくもたれろくもたが

いさるなり

相陰にびん令し。これ

寸陰 淮南子曰聖人、不貴尺璧、而重寸陰、時難得易失也。 晋陶侃云、萬惜寸陰、人可惜分陰、

一寸ノ光陰、過凡間、世間、惜人、志誠、光陰ニ  
ツテ我身ノ其ニ往クヲ不知也。 業平ノ奇、  
大カタ八月ヲモメテ、コトモ大ノ人老トナシトヨ  
メルモ此心ナシ

急にしてにらる人の  
あふりて。一後ろしとい  
へどもあれはるぬれま  
づき人と。とある人と

命ノ終止期ニナリ

ちの。されば商人の一錢とわしむ心切なり。

たはくどといへる。ととをひてやまされば念と

終つて忽りいさる。されば道人の。ととく日月と惜

へい。その今の一合むら。と念し息止ら惜み

か。ありて我命あといへる。失るべしと

若くせしん。ふの。あひ。何する

う。何する。いとちる人。我あふりのいさる

日。ちんそそ時。とちん。日。ちん

飲食便利。睡眠。言終。歩。とて

たのくの時をうしあ

とまのりの。いさる。とて

とまのりの。いさる。とて

とまのりの。いさる。とて

とまのりの。いさる。とて

睡眠 説文 睡坐寝也  
言語 自言 曰言各述 曰語

コトモ  
シモフ

して。時とつらとものこちるべし。月と直  
て。一生と送ふ尤とあつなり。謝靈運ハ。法花乃筆  
交なるも。心つら。風雲の思ひと観せ  
う。惠を白蓮乃交とゆるさうりま

謝靈運 南史謝靈運幼穎悟文章之美与顔延之為江九才一世示顔謝云  
宋ノ九才中ニ為永嘉守郡有名山水隸意遊遊尋山陔嶺造遠峻一登踞常著木筏  
上山去前齒下山去後齒云

筆受 梵語ヲ唐土ニ通交スルヲ翻訳云々其ヲ唐字ニ清書シテカキウツスヲ筆受ト云々  
運カ法華ノ筆受ト云フ不審凡ソ法華ニ彼是五度翻訳アリ庄靈運カ筆受ト云フ  
筆受ノハ三体詩ノ注見ヘリ但シ法華涅槃同味ノ經ト其涅槃ニテ法華ト云ハ分兼好  
心雜知

風雲の思 本傳モ凡如ク名山名水ニ遊遊シテ凡雲ノ風景ニ詩賦ヲ詠ノ樂メルコト云ヘリ  
惠遠 釈氏要覽見昔晋惠遠法師ノ鳳門人ナリ住庐山虎溪惠林寺 招賢士。劉遺民。  
宗炳。雷次宗。張野。張詮。周統之等ヲ為會修西方淨業 彼院多植白蓮 又弥陀佛  
國以蓮華分九品次第接スラ故ホ蓮社ト  
白蓮の交 白蓮社上ノ惠遠カ院ノ名ノ事文類聚曰謝靈運求入淨社遠師以心雜知

扱爰ノ大意ハ晋ノ謝靈運ハ法華ノ筆受シ名カトノ人ナリ心外ニ馳テ風雲ノ思ヲ觀ノナリ  
陰ヲ惜テ眞空ノ道ヲ修スラ懈怠ス故惠遠ガ蓮社ノ交リヲ求メテ不救トク  
とつらしきと死にたれ。死人よわち

睡眠言語ヲ指ノ見ヨトナレ一説ニ發端ノ是ヨク知ルカ愚カノ是ノ字ニ斜ノノ是ト云ヘリ此ノ  
説可也是ナキト此寸陰ヲ惜ミテ字向修行行テ益ヲ馳スルト其眞ノ道ヲ離レテ心  
外放ツ故死人ト同ト云

光陰何のたれよう。世間ノ憂々トシテ思惟セズ  
世間ノ憂々トシテ思惟セズ  
世間ノ憂々トシテ思惟セズ

かたり 一段畢竟前ニ色欲ノヲテ愛ハヌトシテ風雲ノ景ヲ心ヲヒカテ実理ヲ忘ル人ヲ戒  
詞名此木のかりとしひーとのこ。人をわきて。ぬ  
く木よのむせて枝ときまらにいとあやう  
くもろくわらひつらなきて。おろし時よ



博奕好飲食ヲ不顧父母養ヲ不孝也ナリ

此段ハ前段ニ双六ノ勝負ノ一ヲ論ズニ依テ若好ヲ益見ノカト辞ニ泥シテ本意ヲ失フ

人アラニカト恐テ好テ益ヲ記スナシ

何ゾ一大事ノ事ヲ上ル時ニ切リ切ニ然歎ク時ニ爰ノ三行ニ又ナトナリ

他人ノナリモラキ

其ノ向レ又人此ノ何上テ向ヌトウラニハセスナリ手前ニ進去トモバ以是ヲ立スナリ

是ヨリ右ノ多ク好老人道世者ナドノラ云

人ノ又世ヲツカニカバツトテ去キナリ

人間ノ義式ツラキ

のるうさりか

黙止

是非正ト世ヲラシム

是ト必トせえ

移びむ

心ノいとゆもち

一生ハ

雜事ノ小節

へらして

吾生既ニ蹉跎あり

信

此段老人病者

徒然三

博奕好飲食ヲ不顧父母養ヲ不孝也ナリ

此段ハ前段ニ双六ノ勝負ノ一ヲ論ズニ依テ若好ヲ益見ノカト辞ニ泥シテ本意ヲ失フ

人アラニカト恐テ好テ益ヲ記スナシ

何ゾ一大事ノ事ヲ上ル時ニ切リ切ニ然歎ク時ニ爰ノ三行ニ又ナトナリ

他人ノナリモラキ

其ノ向レ又人此ノ何上テ向ヌトウラニハセスナリ手前ニ進去トモバ以是ヲ立スナリ

是ヨリ右ノ多ク好老人道世者ナドノラ云

人ノ又世ヲツカニカバツトテ去キナリ

人間ノ義式ツラキ

のるうさりか

黙止

是非正ト世ヲラシム

是ト必トせえ

移びむ

心ノいとゆもち

一生ハ

雜事ノ小節

へらして

吾生既ニ蹉跎あり

信

此段老人病者

徒然三

前記ス如人ハ四十有老ノ初止

同ナシ「好色ノ心ナリ」あまの人の色あまのころころことあつ

堪忍ナク色欲ノ念ハ棄リ安キヲ多ク恐ニテ「殊ニスキ好テ口外ニ出テ」忍びてあまの人の色あまのころころことあつ

人のうへもいひあつてそまげちるぐり

れ「是ヨリハニク見ガレキナラニ一筆」老人のワ

人リゆりて興あまの人の色あまのころころことあつ

ぬめりて世のそあまの人の色あまのころころことあつ

ころまづしたあまの人の色あまのころころことあつ

ときまゝあまの人の色あまのころころことあつ

今も川乃あまの人の色あまのころころことあつ

うりよあまの人の色あまのころころことあつ

有栖川 下嵯峨ノ里へ入ル小川ナリ

京極前太政大臣

千早孫少官ナリス川松共ニヤカケハスムベキ

あがき 疏ノ字也 文選東都賦 疏餘是ト

アリ注 履也又字彙ニ曲也トナリ然六足ヲ折テ

アツカ

ウの童うれ 平飼イ送モ頭ヲ童子如ク結

ありたればあまの人の色あまのころころことあつ

ま車やん事。まの丸はゆりてえま

希まの男なりとてま車は頭とらあて

にたり。まの丸ハ太秦どの男。料

の牛飼ぞり。は太

太秦 内大臣信清父中因白隆公ノ後

三テ贈充大臣信隆ノ息ノ防門 臣太秦也

則信清父名料ノ牛飼トナリ

足テ前水ヲカク

これがあがたのまあ極ぞ

ままの丸はゆりてえま

ま車は頭とらあて

にたり。まの丸ハ太秦どの男。料

の牛飼ぞり。は太

太秦 内大臣信清父中因白隆公ノ後

三テ贈充大臣信隆ノ息ノ防門 臣太秦也

則信清父名料ノ牛飼トナリ

其道不知他ヲ解スラ戒ミテ

或説ニ太秦なる牛ヲ好テ女房ノ名モ牛ヲヨセテ名付テ

太秦なるゆりける女房乃

は太

の牛飼ぞり。は太

太秦 内大臣信清父中因白隆公ノ後

三テ贈充大臣信隆ノ息ノ防門 臣太秦也

則信清父名料ノ牛飼トナリ

其道不知他ヲ解スラ戒ミテ

或説ニ太秦なる牛ヲ好テ女房ノ名モ牛ヲヨセテ名付テ

太秦なるゆりける女房乃

は太

の牛飼ぞり。は太

太秦 内大臣信清父中因白隆公ノ後

三テ贈充大臣信隆ノ息ノ防門 臣太秦也





ゆくばりやつらぬまあひて昔よ死シりたり。  
是ニリ兼好ノ判  
 ちろくといふ者しりしなりきりや。と世よ  
梵論  
 梵字漢字など云々者。そのりあ  
 かりきまともや。世とともてうに似て我れつて。  
 仏とねごとく無て。聞コト諍コトとことと。放逸ホウイツ喜キ慙セン  
 のまよまもれども。死と輕ケイして少もちりものご  
 るこつ乃いさぎよくあひて。人のさるさる海さよ  
 うさつちもゆふなり。  
此段上ノ女房ノ名ノ不審ナレ依テ又梵論字梵字ナドヲ類ニテ記ス亦ハ暮露ノ行跡尤モ放逸無慙ナレ師ノ辭不志ニテ尋來ト我ト名余出テ互ニ義ヲ重シ命ヲ輕クセテノ事君致身ヲ或共ニ戴天ト云テ理近ク大並テ記之  
 刹セツ院イン乃魏ケイ。さサぬヌ糸ス乃物モノにも名ナとほホくクるルるル。じ

くクのノ人ノのノさサつツしシ求モトむム。たタあアりリれレまマくクよヨさサくク  
理屈ヲ云フ  
 付ツけケるルなりリ。はハ比ヒひヒのノさサくクのノ業ノオオ免メとトあアるルハハさサんンとト  
見別  
 志シるルやヤうウにニゆユかカるル。いイとトむムつツ。人ノのノ名ノもモあアるルれレぬヌ  
モ  
 又マ字ジとトほホのノんンとトさサるル益セキちチもモ事コトなりリ。何ナニのノもモしシめメ  
 つツしシまマしシとトあアるルもモあアらラぬヌ。又マ説セツとトいイむムハハ後セ才サイ人ニ  
才  
 のノもモいイとトあアるルもモいイとトあアるル。  
此段前ノ段ニ名ノ同工難キヲ奉テ爰ニ至テハ凡テ物名ハ易ク直チラ是ト云テ述リ

友トモとトモすスるルにニ七ナナ 此段論語ニ益者三友損者  
三友トアルニ本ツキテ云リ  
 誠マコトニニ朋友トモトモハハ五イヒ倫リンノノ一ヒトツツヲヲ相アイ切キ磋サスステテ道ミチアリ  
尤善惡ヲ可知也  
 三ミ三ミ病ヤマトちチくク乃ノはハいイのノまマいイ人ニ。三ミ三ミ病ヤマトちチくク乃ノはハいイのノまマいイ人ニ。三ミ三ミ病ヤマトちチくク乃ノはハいイのノまマいイ人ニ。  
行跡食物ニ不依自分ノ過ヲ不覺  
 友トモとトモすスるルにニ七ナナ 友トモとトモすスるルにニ七ナナ 友トモとトモすスるルにニ七ナナ 友トモとトモすスるルにニ七ナナ

老人ノ若ニ事交ハ見ガレニ

一六



ものにてけ比もてなれ

物なり。それしかゆるくの年より此の物へは眞  
 ののまゝ。うらやましく世傳でた。とくくくく人の  
 前へおふ事。ゆるぎ。頭ハ下初もらるるまうりて  
 きてゆるり。ものなりと。ま。やうの物も世の末  
 となれば。上さ。ゆるぎ。入ぬ。ゆるぎ。ゆるぎ  
 前段ヲ承テ鷹ヲサヘサレキト玉ヒニ世末ニナル物ヲモ上ツ方迄賞玩アルヲ述  
 テ上古ノ凡ノ替ルルヲ顯ス

唐の物ハ。茶の外ハなくとも。く。書。唐の物ハ。必  
 しく。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必  
 たる。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必

不せく。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必

尚書旅葵篇云不寶遠物則遠人格

老子經云不貴難得之貨使民不為盜

と又ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必

養ひ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必

大ハ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必

あ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必

一。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必

用。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。ゆるぎ。唐の物ハ。必

物と寶とせびも。又ゆるぎ。唐の物ハ。必

ゆるぎ。唐の物ハ。必

唐の物ハ。必

唐の物ハ。必

唐の物ハ。必

唐の物ハ。必

とくまき。鳥をよみ遊をまり終るはりまきて  
慈鎮和尚縁鳥見ヲ々毛皆我身ラ之ヲ思フニ今ハラレト思ヒニラスヤ  
 雲とこひ野山をたけり熱止時  
乾坤同根一体十六君子八草木枯零ヲ見テ毛則我身ラ之ヲ思フ  
 我力よあつて思ひこころ心あらん人ひとを

うのゆりや。生とくまきめて目をうるまきり

ひるは槩射心なり。王子猷ガ鳥をまきせし林  
「王羲之ガ子ナリ」

の友とまき。ささくへく系  
詩ノ末子注遊息也ナリ

しあふふあつてん  
奇怪

あつてん  
奇怪

あつてん  
奇怪

あつてん  
奇怪

**槩射** 夏槩王無道百姓ヲマフリ妹喜  
 ラ愛シ瑤臺ヲ作り園龍蓬ヲ殺シ終ニ  
 殷湯ニ被亡ホ 殷紂王妲己ヲ寵シ酒池  
 肉林ヲ費シ長夜ノ飲ラシ慰斗炮烙ノ刑  
 ラ行ヒ民ヲ焼キ殺シ比干ガ胸ヲ穿キ後周武  
 被誅 是皆不仁甚シキ至極ナリサ六生ア  
 ル物ヲ殺スル人々者自然ト惻ニ悲処ナリ  
 然ラ其レヲ好ハ槩射ガ心ナリトク  
**王子猷** 排韻ニ玉猷之字ナク猷風流為一  
 時冠性愛所仕晋為黃門侍郎

朗詠ノ章孝標カ詩阮籍味場人歩月  
 子猷カ者処ニ身棲烟  
 めつたち 尚書張翥曰珍禽奇  
 獸不畜于国  
 此段先段ノ無用ノヲ云猶鳥獸ヲ籠ニ  
 入檻ニシテ樂スルハ尤愚ナクヲ戒

必不筆道ニ泥共  
 ためなり。学ニ醫術と習ズ  
病ヲ療スルニテタテ  
 忠孝 小学伊川云病臥於牀委之庸医  
 比之ヲ不慈不孝事親者不可不知医  
 護而にあつてハ。まきり射るはりまきて  
 弓射るはり 周礼注礼樂射御書數  
 謂之ヲ六藝ナリ此ノ六ハ小学寮ニテ小人  
 ニ教ル処ノ藝ナリ尚委之ハ周礼小学字等  
 見ヘナリ

ほも侍系かなまき

人の射術は又あまきり  
大経道理通達ノ五常高知

はて整のせし人とまき

はて整のせし人とまき

はて整のせし人とまき

はて整のせし人とまき

はて整のせし人とまき

はて整のせし人とまき

はて整のせし人とまき

文武醫の道

味はよくてはへへへへ。是と學と云はばくも

食ハ人の天 帝範ノ務農筭備夫食為人

天農為政本云史記酈食記傳王者

以民為天而民人以食為天

爰心ハ天ハ養生允処ナリ又食人ノ

命ラツテグ処トハ食ハ天ナリト云リ然ハ五

味ラ能ク調和シ時食ノタメニ無病

論語子罕篇吾少也賤故多能鄙事

君子多乎不多也上り是則責見ナリ

幽玄 幽微玄妙ノ義也  
文選十六思旧賦序嵇康博綜群藝

於系竹特妙ナリト云リ

○凡詩ト哥ト和漢風儀ヲ度替リタル

ヲウナレト畢竟同也皆真實性情ヲ云

述者ナレハナリ

君良かれと云々詩人情所感ナレハ

邪ナリ正ナリ故周南召南如正ナリ詩ラ

安テ勸善鄭衛ノ如淫声ヲ聞テ懲惡

是ヲ以テ詩ヲ學フヲ重シト云

奇ハ古今真名屋古天子每良辰美景

詔侍臣預宴遊者献和哥君臣情思

可覓賢愚之性於是相分所以隨民之欲

扱士之戈也

系竹ハ樂也 礼樂トシテ同ノ國家ヲ治具也

礼記ノ樂記曰礼以道其志樂以和其声

政以行刑以防其姦 礼樂刑政其極

人ト云べへへへはははははははは

の天ナリ。能味を調和ス

人ト云べへへへはははははははは

細子ノ多ク其ノ要ナリ

外ノ多ク其ノ多ク其ノ多ク

の多ク其ノ多ク其ノ多ク

はははははははははははははは

なるハ。幽玄ノ多ク其ノ多ク

是ト云々くともともともとも

今世世の。これとりのちて

をを治る。漸とる

たつた。金はたつた

れられ。鉄乃益に

ちききに。さつた

或道ニトモ身重キ人ハ兩ノ為ト云也

可勢ナリ

和君ヲ云々不能道法ナリ

はははははははははははははは

はははははははははははははは

はははははははははははははは

はははははははははははははは

はははははははははははははは

はははははははははははははは

はははははははははははははは

はははははははははははははは

此のゆるめ。幾あるのたかやへ。人の力よ止るに越え  
けしきいともむしお。おしは食物。お二はまじる物。お  
三は居おなり人。るれたるけ三よとさる。訊を  
き物か。綾羅。カガ。ニ。非。  
居。カ。カ。カ。金。玉。ラ。チ。カ。ル。非。乳。  
閑。り。さ。ら。る。を。

樂をもと。あざりし人。病あり。病よとさる。ね  
まごころ熱志。あひし。醫。醫。療。を。け。つ。ら。ん。に。  
業。と。ら。り。て。四。の。り。求。ぬ。ご。ら。る。け。ま。け。し。と。け。  
此。四。不。定。元。六。三。食。者。

けはけぶら。けありとも。けはけの外とありとも  
ちむと。強。と。け。け。四。の。り。儉。約。な。り。に。性。の。人。う  
あ。ら。ま。と。と。せ。ん  
儉。約。と。云。心。ラ。可。付。此。の。四。々。不。得。求。不。可。上。又。驕。り。好。人。上。二。  
非。此。の。四。々。不。飢。不。寒。風。雨。ラ。サ。と。儉。約。求。り。約。よ。

是法法師 作者部類云念阿真才也  
新千載集。後拾遺集。作者ノト云。  
てぶと。そら。め。善。会。佛。

は段兼好巴好公。妙。徒。然。ノ。本。意。ナ。リ。前。段。ノ。法。師。ハ。人。ニ。ウ。ト。ク。テ。有。ナ。ト。云。ル。処。同。一。意。  
人よとさる。て。人よとさる。て。四十九日。  
人。よ。と。さ。り。よ。或。聖。を。清。ト。し。

は段愚癡人ノ辞ハ浅ミレキヲモ顯ス  
尚ヲ  
人よとさる。て。人よとさる。て。四十九日。  
人。よ。と。さ。り。よ。或。聖。を。清。ト。し。

なす師。師。て。後。師。の。人。ども。い。の。り。も。こ。ら。に。ま。よ  
は。た。う。と。く。笑。く。侍。う。法。家。と。感。ズ。あ。り。  
あ。ら。ま。と。と。せ。ん  
或。者。の。云。何。も。い。あ。ま。わ。ら。ど。唐。の。物。よ

似ゆるんうへつとひさし。渡ラ流上ヨリタリ  
あはれしよあて  
兼好判ノ愚痴ノ人ハ必ス是等ノ多シ説法ヲラテ評判ハモ何ノ形ヲ云  
わしーらりたり。さる寺師のちあやうやハあふんす。

又人ノ是ヨリ末、錯簡落字ニカトリトモ  
モ同ク愚人ノ辞ノ不分明ヲヲ記スナラン

又人ノ酒をむらとて。

そのまづて人ノ志おもんとするん。劔よ

て人なまきんとするに似るるん。二方よ

つさめちぢちれバもさる時先我頭とさるあよ

人をもえまきぬなり。よのまづの碎てやま

人ハよもめささる。劔よてまらりるるめり

けりよやいとわしーらりき。劔ノ譬ヲ辞ハまへんヤウナレ九ツ

落着ナク疑ヲ残テ可ヲ何ノ思慮ナク劔ノ譬ヲ云 若シ其人劔ニテ我頭ヲ切りヌ、ロミ  
タルニヤト辞ヲ賤ノ爰ニ記ス

ばらの負さハゆりて。其ノ負ケタル者  
せんよあひてハ。其ノ打バカサル謂

勝べき時のいぬれとさる。其ノ時と

よれどつちうらとつちわらと。ある者尸

い段柄変ノイラ云テ天地ノ理ハ極ハ必ス亦スルヲ云ヘリ易六十四卦三百八十四タモ時ノ一

字ノ其ノ時ヲ知リテ進退スルヲ道ヲ知ルトハ云ナリサレハ如此ノ上トモ皆天理ヲガレヌト云

ヲ證ノ尚ヲ人ニ時ノ至ルト云フヲ教ユ

論語魯人長府作少田貫仍ト田子騫ノ云ハ妙無益 不可改但し益ハ改ムレト下心アリ

雅房大納言ハ才ガあくとれた人トて大ぬけもな

大将 大納言文官ノ大納武官ノ大納言トテ  
大納ヲ兼官スルヲ手柄ト

近習ノ人雅房ヲ妬テ絶スル  
後宇多ノ院カ此時後宇多ノ院ニ三院ヲハヒスナリ

つとよきされれば何ぞぞとせ給けり。  
 雅房卿タカ鸞カよらんとして。いまるる犬のありと  
 まり侍侍を中垣チカキの宮ミヤより入侍りつと  
 されきた。院イノ疎ソとゆくもわがわけて  
 来イロの御氣ミキをしたぐひ昇ヒサ色シロも志給シをさうり。  
 是コト兼カミ好判コウパン殺生シヤウシヤウ戒ゲイ  
 さむりの人タカ鸞カをとりされけり。思オモはれ  
 れど。犬イヌの足アソはぬきさうり。虚言ウソハふ便ツギちれど  
 かふこととさうせ給ひてまかせ給ひける。君  
 此御心ココロいとたうとさうりなり。太タいける  
 たうとさうり。或シハ切足キリタラ  
 愛アイシ死シラ惻ソクハ仁ニノ発ハツスル処トコロニ育ユクノ宣ノ王オウノ牛ウシ

タスケ拈宗ノ蝶水ヲカケ玉ハヌモ門クナリ

まん人の畜生チクシヤウ残害ザンガイの類ルイなり。あまの鳥トリ歎ナゲらひ  
 ままむしまでし。心ココロとめてありさぬを  
 るに。ふと思ひ。親オヤとらう。夫婦フウフとなま  
 ひね。欲ヨク多く。力チカラとあう。命イデをわ  
 える。ひとくに悪アク瘵シヤウなるゆへ。人ヒトなりし  
 さうりてまらう。

子コと思ひ親オヤとらう。荘子シヤウシ虎狼コウロウ仁ニアリトモ。猛マウキ虎狼コウロウニサハ仁ニアリハ父子フチウシ喰合クワカフアラセ  
 然シカ大死ダイシヤ其餘キヨ鳥歎トウヲ夜ヨノ露ルノ子コヲ思オモヒ巴ハ徠ライノ勝カチヲ断ツグ羊ヤウノ跪クニテ乳ニヲ三ミ鳥トウノ哺ボラカス  
 類ルイ是コト皆ミナ鳥歎トウノ子コヲ思オモヒ親オヤヲモシム證シヤウ執シツナリ  
 子コヲ思オモヒと友トモナリ 畜物論チクブツロン猿サルハ偏袒ヘンタンヲ雌メ上ノ麋シハ麻マトツト鱈タラハ魚イサト遊アソブアリ  
 詩シ周南シウナン蟋蟀シツソウハ妬思ニョウシセトト七シチ八ハチ其コノ餘ノ餘ノ可カ知チ







うりて。ちぎまき親友ノ間是ヨリ中絶ノ遺恨ナシしむよ類多ク。あま  
 らぬあらしむひとらみ心失なり。是ヨリ学問ヲトスル此ノ兵士カラシク云  
 りと思ふ。たがガタ学文して。ま智と人よまま  
 と思ふべし。聖人ノ道たそあぶとちるハ若くは成らば。  
朋友ノしむとあらしむべし。すといふこと。あま  
 べきおなり。大なる職官職ナリ官名ハ必ス其ノ官ラツカサレバ職ナリも辞し。利ニシテと  
 ろハ人ノ好ム所富貴ノニナリ人ノ悪ム処又貧賤ノ只学問のちのりなり。  
ニシテ其ノキフナク悪ム処不まき。大ナルナクハニシテ官ヲ去リ利ヲ捨テ自ラ潔クスル人古今其  
 人多ク此皆学ノカキ。  
○此段世ニ交ル者礼讓心ヲ知テ自ラ謙退スルヲ教末又学問ヲ善ホコズ自己ノ一分ヲ  
樂今ノ本意ヲ顯ス  
 貧者ハ此段上ノ礼讓上云テ承テ世間又賤とわして礼し。  
巴カ分際ヲ不知過分イラ好ムラ礼ナリ心

得レ依テ其ノ失ヲ改メ教フ由礼云貧者  
 不以貨賤礼也。老者、不以筋力也礼也。  
 とは。そのが是ヨリ上イラシムルふと志して。及スニヤカむざる時、迷スるやむ  
 と初チとらふべし。ゆゑさ貧者、財ヲ不用ラシレリ老人ノ本存世ガレラユルサスらん人のあや向人ノ辨  
 なり。ふと志証して生理ニツトムルまむチカラじチカラひチカラのチカラが  
 誤チカラなり。まチカラづチカラしチカラくて。ふと志チカラづチカラされチカラぬチカラまチカラまチカラ。カ  
 ととらふて。ふと志チカラづチカラざれチカラるチカラ病チカラをチカラうチカラく  
 鳥羽鳥羽作石洛陽ノ南今洛陽帝居旧跡ナリに鳥羽今鳥羽及今鳥羽上今鳥羽高今鳥羽院  
 應德三年應德三年被今鳥羽宣今鳥羽御今鳥羽名今鳥羽名今鳥羽仙今鳥羽洞今鳥羽ナリ此  
 多今鳥羽羽今鳥羽及今鳥羽ラ今鳥羽被今鳥羽立今鳥羽テ今鳥羽以今鳥羽後今鳥羽ニ今鳥羽作今鳥羽ル今鳥羽上今鳥羽云今鳥羽お今鳥羽末  
 夕今鳥羽毛今鳥羽ノ今鳥羽ト今鳥羽世今鳥羽人今鳥羽心今鳥羽得今鳥羽ル今鳥羽依今鳥羽テ今鳥羽古今鳥羽末今鳥羽鳥今鳥羽羽今鳥羽作今鳥羽道  
 云今鳥羽名今鳥羽アル今鳥羽由今鳥羽ヲ今鳥羽顯今鳥羽ス  
 元良親王陽成院才、皇子三品兵部卿  
 親王ト申也  
 元日奏賀元朝辰ノ刻、天皇大極殿  
 老う者ハ力ともして礼  
 及むざる時、迷るやむ  
 初とらふべし。ゆゑ  
 辨なり。ふと志して  
 誤なり。まづしめて  
 ととらふて。ふと志  
 鳥羽乃他今鳥羽り今鳥羽居今鳥羽る今鳥羽。多今鳥羽羽今鳥羽及今鳥羽  
 ちら今鳥羽ま今鳥羽て今鳥羽後今鳥羽の今鳥羽名今鳥羽も今鳥羽あ今鳥羽り  
 び今鳥羽じ今鳥羽し今鳥羽ま今鳥羽ら今鳥羽れ今鳥羽名今鳥羽な今鳥羽り。  
 元良親王元日見今鳥羽れ今鳥羽奏今鳥羽賀今鳥羽ナリ

行幸凡時群臣門入テ再拜ス此時奏賀奏瑞上テ二人ノ者庭上ニ立並ニテ事ナリ是去年國ニテ奏セシ吉祥ト書集テ今日奏申ス

大極殿 拾遺云ク大極殿朝堂院。名。式部院。天子臨時即位諸司告朔所。又謂之中臺。

李部王 延喜御子式部卿重明親王。其ノ踐ニテ記録ヲ李部王。記ト号ス。吏部。式部ノ異名也。東部。李部音通ス。故ニ用ユ。

東と於 礼記云寢時東首。孔子東首。論語曰疾君視之東首加朝服。抱紳。朱注云東首以受生氣也。陳氏云天地生氣始於東方。

寢取のちるゝ。或ハ南。枕常のちるゝ。白河院。小首。水。寢。なり。又。

伊勢ハ南なり。大津宮ハ此方と云。此段天子御枕ノ方角ヲ記ス。ハルカニヲガナリ天子ノ御身ハ爰ニレニレテハルカニ太神宮ヲ拜シテ云ク。○此段天子御枕ノ方角ヲ記ス。

法華三昧 各集集云三昧云調直定。又云正定。亦云正受。○常行三昧ヲ行僧ヲ云ナリ。

律師 要覽曰律鈔解題云佛言善解一字多律師一字律一字也宝雲經曰具足十法名多律師。

鏡 三休詩許渾詩高秋一曲掩明鏡。昨日少年今白頭。

伊勢ハ南なり。大津宮ハ此方と云。此段天子御枕ノ方角ヲ記ス。ハルカニヲガナリ天子ノ御身ハ爰ニレニレテハルカニ太神宮ヲ拜シテ云ク。○此段天子御枕ノ方角ヲ記ス。

聲もあつて。殊緒いひ。大極殿より。多明の作。る。まて。吹えけ。う。李。部。王。の。記。は。つ。ら。と。わ。

湯気もくく。へ。ま。ゆ。り。孔子も東首。一。強。り。枕常のちるゝ。白河院。小首。水。寢。なり。又。

伊勢ハ南なり。大津宮ハ此方と云。此段天子御枕ノ方角ヲ記ス。ハルカニヲガナリ天子ノ御身ハ爰ニレニレテハルカニ太神宮ヲ拜シテ云ク。○此段天子御枕ノ方角ヲ記ス。

法華三昧 各集集云三昧云調直定。又云正定。亦云正受。○常行三昧ヲ行僧ヲ云ナリ。

律師 要覽曰律鈔解題云佛言善解一字多律師一字律一字也宝雲經曰具足十法名多律師。

鏡 三休詩許渾詩高秋一曲掩明鏡。昨日少年今白頭。

伊勢ハ南なり。大津宮ハ此方と云。此段天子御枕ノ方角ヲ記ス。ハルカニヲガナリ天子ノ御身ハ爰ニレニレテハルカニ太神宮ヲ拜シテ云ク。○此段天子御枕ノ方角ヲ記ス。







作<sup>ス</sup>海鹽<sup>ヲ</sup>徐<sup>カ</sup>以<sup>テ</sup>黃帝<sup>ノ</sup>臣<sup>也</sup>

うらなれ<sup>バ</sup>。木<sup>ノ</sup>の内<sup>府</sup>解<sup>解</sup>とぞ

にあ<sup>ら</sup>われ<sup>ト</sup>助<sup>助</sup>語<sup>語</sup>うら<sup>う</sup>。い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>へ<sup>へ</sup>床<sup>一</sup>

とよ<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ト<sup>ト</sup>契<sup>ク</sup>ス<sup>ス</sup>人<sup>人</sup>雲<sup>ス</sup>脚<sup>キ</sup>音<sup>キ</sup>より<sup>リ</sup> 奇<sup>キ</sup>ニ

秋<sup>秋</sup>菽<sup>ニ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ヒ<sup>ヒ</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>足<sup>足</sup>引<sup>引</sup>山<sup>山</sup>下<sup>下</sup>と<sup>と</sup>鹿<sup>鹿</sup>鳴<sup>鳴</sup>ラ<sup>ラ</sup>ニ

さ<sup>さ</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>け<sup>け</sup>ら  
さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>回<sup>回</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>な<sup>な</sup>り

徒然草諺解卷三終

馬場



